しが国際協力親善大使レポート

谷口（たにぐち）　直也（なおや）さん

隊次：２０１７年度３次隊
職種：数学教育
派遣国：タンザニア

自己紹介

滋賀県大津市出身。石山中学校、石山高校、立命館大学卒。国立大学法人事務職員として 2 年間勤務したのち、休職制度を利用して青年海外協力隊に参加。タンザニア キリマンジャロ州にある中等学校で数学教育隊員として活動中。

活動している国、地域の気候や文化の紹介

私の活動地域はキリマンジャロ州モシ市です。モシはキリマンジャロ山の麓であり、登山のため多くの外国人が訪れます。気候は大きく乾季と雨季があり、雨季の 6 月～7 月あたりは 10℃近くまで下がることも多く肌寒いです。タンザニアの人たちはとても陽気で、人と話すのが大好きなように感じます。食文化では、伝統料理のウガリや米が主食です。キリマンジャロ郷土料理のムトリという調理用バナナのスープはとても美味しいのでオススメです。

活動や生活について

日本の中学 2 年生～高校 2 年生にあたる中等学校にて、現在 4 クラスの数学授業を担当しています。1 クラスの規模は約 40～50 名程度です。生徒たちは毎朝 7 時に学校へ行き、午後 3 時過ぎまで多岐にわたる授業を受けます。休憩時間は午前 20 分、昼食 40 分の 2 回だけです。また給食はウガリとマハラゲ（豆）のみで、お肉や野菜はありません。タンザニアの教育現場では体罰による指導が主流となっており、日本では想像できないような厳しい体罰が毎日のように行われます。このような現状を知り、僕自身が中学生の頃に感じた「数学って楽しい！面白い！」という気持ちを生徒たちになんとか味わってもらいたいと願い、笑顔とユーモアに溢れる楽しい授業を日々試行錯誤しながら実践しています。また集団授業では限界があるため、放課後に化学実験室を開放して生徒一人ひとりに接する機会をつくる努力をしてきました。また、この放課後の時間を利用して日本語教室や日本文化紹介を行うなど「世界を知る」きっかけづくりに取り組んでいます。

配属先の教師の方々をはじめ、近所に住む大学生たちも日本に対する関心が高いように思います。2018 年 6 月にはサッカーロシアワールドカップがあり、日本が決勝トーナメントへ進出したことからタンザニアでも注目を集めていました。また 2018 年 6 月の大阪地震

や 7 月の西日本豪雨、連日猛暑が続いた報道なども耳にしているようで、いつも僕に声を掛けて日本のことを心配してくれたり、応援してくれたりします。僕自身も、日本人としてタンザニアで起きている出来事にもっと関心を持つ必要があると強く思いました。一般的な日本人の印象としてはやはりお金を持っているというイメージが強く、僕自身も町を歩いていたところひったくり未遂に一度遭いました。その一方で、僕の同僚の友人たちは何か困ったことがあればいつでも連絡してほしいと言ってくれたり、休日には町へ連れ出してくれたり、自宅に招待してくれたりする等、僕のことを家族のように優しく接してくれます。日本から遠く離れたタンザニアで、こうした大切な仲間に出会えたことが僕にとって何よりの喜びです。

授業風景

放課後の日本語教室

職場のオフィスで同僚との一枚

学校から見えるキリマンジャロ山

タンザニアといえばサファリ。ヌーの群れ